



平和フェローを求めて

国際ロータリー第2510地区 財団奨学金・平和フェロー委員会

副委員長 菅原 秀二
(札幌大通公園RC)

財団奨学金の中に、平和フェローシップという奨学金がある。「世界平和と開発の担い手となる人材を育てる」ための奨学金である。当地区でこの平和フェローシップの担当となって数年たったがまだ一人もこの奨学生を選出できていない。もっと正確に言えば、当地区は今まで多くの財団奨学生を輩出してきたが、平和フェローを送り出したことはないということである。財団奨学生の志望者の面接の際に、留学が終了した後、将来、国際機関で働き平和に貢献したいという声をしばしば聴くだけに、非常に残念である。

平和フェローを選出できない理由は、その申請要件にある。財団ハンドブックによると「関連分野における少なくとも5年間のフルタイムの職歴またはボランティアの経験」が必需だからである。この資格を満たすのが難しいのか、毎年、応募してもほとんど申請者はいない。しかし、志のある若者がいることは分かっているので、いずれこの奨学金の存在が知れ渡るにつれて、当地区で初めての平和フェローが出てくるものと楽観しているのであるが……。

ロータリーは、平和が「人」から始まると考えており、平和フェローシップを通じて、平和推進者となる人材を育て、その世界的ネットワークを築こうとしている。考えてみれば、このような人材が求められているのは、まさに今、現在なのである。いうまでもなく、第2次世界大戦以降で最大の軍事衝突が2022年2月24日にロシアとウクライナの間で勃発し、その出口はいまだ見えない状況にある。また、中国のような権威主義国家の台頭も著しいものがあり、台湾をめぐる何やらきな臭い状況もある。その一方で、アメリカ合衆国やヨーロッパ連合では、人々の分断が進み、民主主義の危機が叫ばれている。世界中いたるところで、平和の危機的兆候が見られるのである。

その際に重要なのは、やはり人と人との絆、すなわちネットワークである。私はロシアには旅行者として、中国には大学間の協定を求めて、それぞれ短期間ではあるが滞在したことがある。その際に、一般の人との交流において不快な思いはしたことがない。これは私の大学に来る留学生や研究者にも言えることであるし、米山奨学生においても奨学生との交流が奨学生期間終了後、さらに継続している場合があることもよく聞くところである。まさに人と人との交流である。ロシアや中国にもロータリークラブがあったらいいのにと夢想する所以である。

平和が「人」から始まるとするならば、そのような人材の育成はわれわれロータリアンの使命でもある。是非、当地区から平和フェローを出すために、有意な若者のご推薦を各クラブにお願いしたい。